
シュール・ストーキング

ぬじゃわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シュール・ストーキング

【Nコード】

N1460M

【作者名】

ぬじゃわきし

【あらすじ】

みなさん、なるべく夜遅く一人で歩かないようにしましょう。以下のような変質者に狙われるかもしれませんよ……

ある夜のことである。

帰宅中の菜穂子は電車の中で小説を読んでいた。車内はさほど混んでいるわけでもなかった。空いている椅子こそなかったが、立っている人はそう多くなかった。がたんごとんと電車は揺れた。外は田んぼと道路などがそれぞれ街灯の青色の光にうつすらと染まっていた。

しばらくして菜穂子は小説を読み終えた。小説をカバンに入れた。暇だ。やがて、暇を持て余した菜穂子はどことなく辺りを一周ぐりりと見回した。電車の扉、人、広告、人……。

ふと、目の中に立っている人の中に菜穂子をじっと見ている青年が過ぎたことに気付いた。びっくりして菜穂子はその青年を見た。青年はすぐに目を逸らした。青年はげっそりと痩せていて、目はいつも見開いていた。不気味に思った菜穂子はすぐに目を逸らしたが。その時目の端で青年が自分を見るのを感じた。すぐに菜穂子は小説を再び開いて、青年を無視した。

ふと、気配を感じて見回すと、目の前に青年が立っていた。菜穂子は思わず息を呑んだ。

青年は無表情で相変わらず目は見開いている。そして一言こう言った。

「あなたと」

そして後ろを向いてそのまま歩き去った。

あなたと。そして何だ。あなたと何だ。菜穂子はすでに感じた不気味な思いをさらに増させた。

電車が停まった。丁度最寄り駅だったので、すぐさま菜穂子は降りた。すぐに走って改札まで急いだ。

改札を通った時、何かに正面衝突して菜穂子は転倒した。起き上がると、先ほどの青年が立っていた。青年は言った。

「あなたと、」

そして次の言葉。

「結婚したい。」

あまりに不可解、見ず知らずの人に「結婚したい」って、と菜穂子はあまりの事に沈黙した。青年は再び言った。

「あなたと、結婚したい。」

そのまま青年は同じセリフを繰り返した。

「あなたと、結婚したい、あなたと、結婚したい、あなたと、」

菜穂子は怖くなって逃げた。逃げながら帰宅路を走った。誰だ、あいつは。いきなり「結婚」ってなんだ、狂ってる、狂っている、変質者なんだわ、きつと。

途中で息切れしてはあはあ、と休息した。もう逃げ切れただろうと思っていたら、微かにあの声が聞こえてきた。

「……たい、あなたと、結婚したい、あなたと、結婚したい、あなたと、結婚」

そして曲がり角から異常に姿勢良くなったかたつたか走ってくる黒い影が見えた。何だこいつは。なんで追跡するんだ。こうなったらまくしかないと菜穂子は人通りの多い道へと駆け込んだ。黒い影も人ごみにまぎれて見えなくなった。菜穂子は不安ではあったが、真っ直ぐ進んだ。

しかし、どうやらまいたらしい。「結婚したい」の声も全く聞こえなくなっただし、気配がない。安心して菜穂子は家に帰った。

そのまま家に着いた菜穂子は、机で野菜だらけの夕食を食べたていた。

その時、ことり、と小さな音が聞こえたが、別に菜穂子は気にしなかった。だが、ことりことり、と音が増した。ネズミか虫か。不意にごことごとこと、と音が鳴った。

そして、次の瞬間ズガンと言う音と共に机が飛び、夕食が粉々に砕け散った。呆然とした菜穂子の目の前で信じられない事が起こった。机のあった地面が沸騰したのだ。意味が分からないが地面が沸騰したのである。そこからあの青年ぼこぼこと湧いて出てきたのだ。無表情の青年は話した。

「あなたと、結婚したい。」

激しく悲鳴を上げた菜穂子は家から逃げ出した。途中で十字路があったので菜穂子は右に曲がっていった。そこ真っ直ぐ走ると、ふと前の方に誰かが立っているのが見えた。あの青年だ。

ふたたび悲鳴を上げて引き返した。すると、目の前でマンホールが吹き飛び、マンホールから青年がまた湧いて出てきた。

「ぎゃーっぎゃー、来るな！こっちに来るな！」

そしてとうとう袋小路に追い詰められた菜穂子は目の前にゆらゆらと歩いてくる青年をひたすら蹴飛ばした。青年はひたすら「あなた

と、結婚したい、あなたと、結婚したい、あなたと、結婚したい」と
と呟き続けていた。

ふと、脇に大きな鉄くずを発見した。菜穂子はヤケクソになり、半
ば半狂乱の状態だったため、その中の小さな鉄筋を取り出して青年
をぼかすか殴った。

「あなた、と、けつ、こん、した、い、あな、た、と、けつ、こ、
ん、し、た、い、あなた、と、」

そのうち声が何故か太くのろのろとしだした。

「うああなあとうあとうお、くえっこんすいとうあい、うああなあ
とうあとうお、くえっこん・・・」

そのうち青年は腹ばいのまま動かなくなった。菜穂子は血走った目
ではあはあと、うずくまる青年を見た。

と、その時、青年が急にガサゴソ動き出し菜穂子の足首をがっとな
んだ。

「ぬううううああああああ」

菜穂子は力の限り悲鳴を上げ、さらに青年をぼかすか鉄の棒で殴り
倒した。本当に動かなくなったのですぐに逃げ出した。

その時、「どうしたの？」と中年の女性にすれ違った。悲鳴を聞いて駆けつけたらしい。菜穂子はぶるぶる震えながら、「い、いいえ、な、んでも、ないです、大丈夫、です」といかにも大丈夫でなさそうに答えた。

「そうなの・・・」とその中年の女性が言った時、突然その人は「あああつくうつ」と苦しみだした。「どうしたのですか!？」と今度はあべこべに菜穂子が尋ねた。中年の女性が顔を上げた。その顔は、あのげっそり痩せて目を見開いた、あの青年の顔であった。中年の女性は言った。

「あなたと、結婚したい。」

そして中年の女性の髪の毛はパラパラと落ち、青年の黒い髪が生えてきた。同時に体型も青年のそれにぐぎぐぎと変形していった。

菜穂子は何度とも上げたかも知れぬ悲鳴をふたたび上げ、青年と化した中年の女性から逃げ出した。この悪夢はあといつまで続くのだろうか。あといつまで、いつ。

水面から青年が沸きあがって「あなたと、結婚したい。」と言うのを見、木の皺が変形して顔になって「あなたと、結婚したい。」と喋るのを見、小さな蠅が何匹も菜穂子にまとわり、「あなたと、結婚したい。」「あなたと、結婚したい。」「あなたと、結婚したい。」とか細い声で言うのを見た。よく見るとその蠅の顔はあの青年の顔であった。風の音でさえ「あなたと、結婚したい。」と言っているように聞こえ、菜穂子は発狂しかけていた。

しかしとうとうまた袋小路に追い込まれた。しかも傍に武器に相当するものが無い。菜穂子は後ろを振り返った。

あの青年が大量にいた。見える範囲では何十人ものあの青年がゆらゆらと「あなたと、結婚したい。」「あなたと、結婚したい。」「と言いながらこちらに近づいている。マンホールがガチャ、ズズズズという音と共に開き、大量の青年がそこから「あなたと、結婚したい。」「あなたと、結婚したい。」「と言いながら出てきた。

とうとう追い詰められた菜穂子は、おそらくこの青年は無敵なのだから攻撃もムダだと察し、こう言った。

「ムリです。あなたとは結婚できません。」

すると奇妙な出来事が起きた。何百人もの青年が一斉に「ああああ……」とため息を上げて、どんどん小さくなった。どんどん小さくなって、黒いゴマ粒になって、埃のようになって、消えた。

悪夢は忽然と過ぎ去った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1460m/>

シュール・ストーキング

2010年10月15日21時52分発行